

町政をただす



問

じゅ せいおとろ
大イチョウの樹勢衰え
樹木医による調査は？

答

とうあつがい
来訪者の増加による踏圧害が深刻
土壌改良を行ったが、効果得られず

おおかわ きよみつ
大川 清光 議員



質問者の動画が
視聴できます。

大イチョウの管理に
ついて

問 大川議員

①近年、大イチョウの葉の縮小及び変色部分が見受けられる。樹木医による調査等を最
近行ったのか。

またその結果及び町の管理体制は。

②大イチョウは昔から神木として神楽も行われていたが、現在は行われていない。木の周りの祠は老朽化しており、枝の下になってしまっている。祠の移動をすべきではないか。
③神楽である8月16日に大イチョウをメインとした観光事業として、ライトアップして「ビックグリーン」をやるなど、北金ヶ沢での祭りがなくなったことを踏まえて検討すべきと思うが。

答 町長

①平成28年9月に樹木医が「来訪者の増加による踏圧害が深刻であり、葉が小さく



立入禁止となった大イチョウの幹周辺

つていることから踏圧害による根の成長阻害がある。」と診断があった。そのため、平成30年度に樹木医の指導を受けながら土壌改良を行ったが思うような効果が得られず、令和2年6月に再度、樹木医に相談したところ「幹周辺に立入れないようにしたほうが良い。」とのアドバイスを受け、北金ヶ沢自治会、北金ヶ沢イチョウ保存会、観光課との協議の上、令和3年5月か



建立者が分からない祠

ら幹周辺に立入禁止柵を設置している。
また、今年度は青森県樹木医会に調査及び土壌改良を委託する予定となっている。
②祠の建立者が特定できないまま現在に至っており、今後更に老朽化が進み、景観を損なうような場合は、北金ヶ沢自治会、北金ヶ沢イチョウ保存会と協議の上、その対応について検討したい。
(次ページに続く)

町政をただす

▶安倍安東まつり(昭和62年)



③大イチヨウは当町が誇る観光資源の一つで、今後どのような形で祭りやイベントが開催できるのかを、地域の方々とともに検討したい。ただ一方で、高齢化と人口減少に伴うマンパワー不足には大きな危機感を抱いている。今後の大イチヨウを中心としたイベントの開催については、会場周辺の駐車場の確保や安心できる会場の警備計画なども含め、関係部署や関係機関のほか、地域の方々ともその内容や方法等について検討していきたい。

漁業振興について

問 大川議員

①イトウの中間育成(海上養殖)の今後の展望は。

②魚の生産調整及び付加価値向上に向けて、個人管理のい

けすの設置を検討できないか。

③地球温暖化で水揚げの減少

はより深刻化している今、海中何が起きているのか、調査が重要ではないか。そこで、

若い漁業者を中心に漁協の枠を超えたダイバー育成の資格

取得、道具一式の購入を町で補助できないか。

答 町長

①現在、イトウの「海水養殖」は、新深浦町漁協の大戸瀬地区の青年部で行っており、平成25年度から2年間、北金ヶ沢漁港内でイトウの「海上養殖試験」を行ったのが始まりだが、漁港内での養殖試験には区画漁業権を取得する必要があることが分かり、平成27

年度から現在の種苗センターの水槽で行う「陸上養殖」に切り替えた。町が十一湖で養殖しているイトウを当初より、毎年300匹程度を有償にて提供している。



▲イトウの陸上養殖(大戸瀬地区)▶

この事業に取り組んでいる漁業者の前向きな意欲に因應するため、町としても種苗となるイトウの提供に引き続き努めていく。

②個人管理ということで、いけすの管理や出荷調整中の魚の給餌、更には漁業者が市況を見ながら出荷するということはなかなか困難だと推察するところだが、漁協と連携、協力しながら事業に取り組むならば成功への道も開けるものと思う。各漁協に連絡し、希望する場合は積極的に支援していきたい。

③その調査に当たっては10年単位にわたる水温調査や藻場の定点観測、類似調査との比較検証といった専門的知識を要するほか、旬の魚がいなくなった、南方系の魚が見られるなど漁業者の実体験も加味し考察する必要がある。調査方法や時期、期間、実施体制など一連の事業設計を構築した上で必要な支援を行うべきものと思っております。